

様式1

令和6年度 山口県立下関西高等学校 学校評価書 校長 宮村 和幸

<b>1 スクール・ミッション、学校教育目標</b>	
校是「天下第一関」のもと、生徒の自主性を大切にしながら、教科等横断的な学び(STEAM教育)や地域・社会等と連携・協働した課題解決型学習、海外との交流による学びの充実等、先進的な教育の実践を通して、知・徳・体の調和がとれ、グローバルな視点に立って社会に貢献できる人材を育成します。	

<b>2 スクール・ポリシー</b>		
普通	<b>グラデュエーション・ポリシー</b> (育成をめざす資質・能力に関する方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知・徳・体の調和がとれた人間性と社会性を育むとともに、進学指導に重点を置いた学校として、質の高い知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学び続ける力を育成します。</li> <li>○ 明確な進路意識をもち、将来の目標に向かって、高い志をもって挑戦し続ける心を養います。</li> <li>○ 幅広い学びによって培った自らの特長を生かし、多様な他者と協働しながら社会を担うリーダーとして活躍するための資質・能力を育成します。</li> <li>○ グローバルな視点に立って行動するための国際的素養を育成します。</li> </ul>
	<b>カリキュラム・ポリシー</b> (教育課程の編成及び実施に関する方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 習熟度別授業やICTの活用等により個別最適な学習の充実を図るとともに、教科等横断的な学びを取り入れながら、身近な社会課題に関連した課題解決型学習を展開します。</li> <li>○ 体験的なキャリア教育の充実を図るとともに、進路希望や適性に応じて文系・理系コース別に幅広い学習を展開します。</li> <li>○ 文化祭、体育大会、クラスマッチ等の特別活動を積極的に展開するなど、全人的な教育を行います。</li> <li>○ 地域社会の文化・歴史・自然等に関する学習等、国際的素養を身に付けるための学習の充実を図ります。</li> </ul>
	<b>アドミッション・ポリシー</b> (入学者の受け入れに関する方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自らを律し、将来に向けた高い目標に向かって、常に前向きに学ぶとともに、豊かな人間性を培うために努力を惜しまない生徒を募集します。</li> <li>○ 幅広い知識・技能を身に付けるとともに、自己の将来や社会との関わりの中で深く学ぼうとする生徒を募集します。</li> <li>○ 将来グローバルな視点に立って社会に貢献するため、国際的素養を身に付けたい生徒を募集します。</li> </ul>
探究	<b>グラデュエーション・ポリシー</b> (育成をめざす資質・能力に関する方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知・徳・体の調和がとれた人間性と社会性を育むとともに、進学指導に重点を置いた学校として、質の高い知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学び続ける力を育成します。</li> <li>○ 明確な進路意識をもち、将来の目標に向かって、高い志をもって挑戦し続ける心を養います。</li> <li>○ 多様な他者と協働しながら、答えが一つに定まらない課題を解決するなど、次世代のリーダーに求められる資質・能力を育成します。</li> <li>○ 多様な価値観を理解し、グローバルに活躍するための資質・能力を育成します。</li> </ul>
	<b>カリキュラム・ポリシー</b> (教育課程の編成及び実施に関する方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 習熟度別授業やICTの活用等により個別最適な学習の充実を図るとともに、教科等横断的な学びを取り入れながら、大学等と連携した高度な課題解決型学習を展開します。</li> <li>○ 体験的なキャリア教育の充実を図るとともに、人文社会科学科と自然科学科に分かれて、「英語」「理数」等の発展的な学習を展開します。</li> <li>○ 文化祭、体育大会、クラスマッチ等の特別活動を積極的に展開するなど、全人的な教育を行います。</li> <li>○ 留学生との交流や海外研修を通して、多様な価値観に触れるとともに、英語を実践的に活用する機会の充実を図ります。</li> </ul>
	<b>アドミッション・ポリシー</b> (入学者の受け入れに関する方針)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自らを律し、将来に向けた高い目標に向かって、常に前向きに学ぶとともに、豊かな人間性を培うために努力を惜しまない生徒を募集します。</li> <li>○ 専門的な知識・技能を身に付けるとともに、身の回りの現象や社会の諸事象に目を向け、そこで発見した疑問を自ら進んで解決しようとする生徒を募集します。</li> <li>○ 将来グローバルに活躍するため、多様な価値観と高度な国際感覚を身に付けたい生徒を募集します。</li> </ul>

<b>3 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</b>	
<b>【学校運営】</b> ○ スクール・ミッションを踏まえ、昨年度スクール・ポリシーを策定したところであり、本ミッション及びポリシーの具現化を図るための取組を展開するとともに、令和8年度の併設型中学校設置に向けて、中高一貫教育の在り方に関する検討を推進していくことが喫緊の課題である。 ○ 職員会議の審議事項・連絡事項の精選を図ることで会議時間の短縮を図るとともに、教員間の業務の平準化を図るなど、業務改善を進めている。今後は、今年度新たに配置された教員業務支援員の効果的な活用を進めていくことが課題である。 ○ 今年度から新たに欠席連絡用アプリを導入するなど、学校・保護者間の連絡手段のデジタル化を進めている。今後は、フルクラウド化の導入を見据え、ICT環境の活用による業務改善を一層推進する必要がある。 ○ 学校ホームページの刷新、インスタグラム公式アカウントの開設を行うなど、積極的な情報発信に努めている。今後は、文理探究科や中高一貫教育に関する情報発信の一層の強化を図る必要がある。	
<b>【学習指導】</b> ○ 進学実績に一定の向上がみられる。引き続き、難関大学への進学実績の一層の向上に向け、教員の指導力の一層の向上を図るため、教員研修の充実、教員の指導改善につながる効果的な授業評価等の手立てを検討することが課題である。 ○ 総合的な探究の時間や学校設定教科「探究」における探究的な学びの充実を図っている。今後は、探究的な学びが大学進学に向けた学力の向上につながる工夫を講じていく必要がある。 ○ ロイノートを導入するなどICT環境を活用した授業づくりを進めている。指導者用端末の活用は一定程度進んでいるが、学習者用端末の活用状況には課題がある。 ○ 「図書だより」「図書館通信」の発行、ビブリオバトルの開催等、生徒の書籍への興味を喚起する取組の充実を図っている。今後は、探究学習における文献調査に加え、幅広く授業で図書館が利用されるよう啓発していく必要がある。	
<b>【生徒指導・教育相談】</b> ○ 生徒の自主性・主体性の涵養やリーダーシップの育成を図るため、生徒会活動の一層の活性化を図る必要がある。 ○ 自主・自律の校風を尊重しつつもルールやマナーを守るよう継続的に指導を行っている。引き続き、生徒が主体的にルールの在り方を考え、自己指導力を身に付けることができるよう指導する必要がある。 ○ 教育相談上の課題を有する生徒が多く、生徒部・学年を中心にスクールカウンセラーとの連携の下、きめ細かく対応している。引き続き、教員間の情報共有や早期発見・早期対応に努めていく必要がある。	
<b>【進路指導】</b> ○ 保護者対象の進路情報交換会や進路説明会を開催するなど、保護者に対する進路情報の提供に努めている。1年次生の保護者に対する進路情報の提供を求める意見があり、今後の改善が求められる。 ○ 大学セミナー、キャリアセミナーや大学訪問など、生徒の進路意識の高揚を図る取組を進めているが、今後は、低年次から進路実現に向けた意識づけを図る取組を計画的・系統的に実施する体制をつくる必要がある。 ○ 選抜性の高い大学への進学実績の向上に向け、生徒に対する進路指導・学習指導の一層の充実を図るとともに、進路検討会をより効果的なものに工夫改善する必要がある。	
<b>【健康・安全】</b> ○ 感染症の拡大に対しては機動的に対応し、校内での拡大を一定程度に抑えることができています。 ○ 熱中症対策については、暑さ指数計測器の台数を増やしたり、ミスト噴霧器を設置したりするなど工夫改善を図ってきた。引き続き、健康・生命を守りつつ、生徒の活動を保障していくための工夫が求められる。	
<b>【教育企画】</b> ○ 既存の教科・科目を横断して実施する授業「デュアル・クロスカリキュラム」の展開等、文理融合・教科等横断的な学習の推進を図っている。今後は、「デュアル・クロスカリキュラム」の科目化を進めるための具体的対策を講じる必要がある。 ○ 探究学習に関する指導のノウハウの蓄積が進んでおり、各種発表会・コンテストでの受賞実績も向上している。今後は、普通科における探究学習の一層の充実を図る必要がある。 ○ 新たにハワイの高校との共同研究を始める等、グローバル教育の充実に取り組んでいる。今後は、普通科も含め、国際交流活動の一層の充実を図る必要がある。	

<b>4 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</b>	
<p>■「自律した学習者の育成」</p> <p>① 学校運営 中高一貫教育の導入を視野に入れ、教職員の協働体制の強化及び関係機関との連携により、進学実績等に係る地域の期待に応え得る学校づくりを目指す。</p> <p>② 学習指導 生徒の主体的・探究的な学びを通して大学入試等に対応できる高度な思考力や判断力を育成するとともに、国際交流活動等により多様な価値観に触れる機会を創出する。</p> <p>③ 生徒指導 自主・自律の校風を尊重しつつ自己指導力を高めることにより、豊かな人間性や社会性を育てる。</p> <p>④ 進路指導 早い段階から生徒の進路意識を高める働きかけを行い、自らの将来に向けたビジョンをもたせるとともに、多様化する進路希望に柔軟に対応しながら、生徒の希望進路の実現を図る。</p>	

5 自己評価					6 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価	
学校運営	学校の組織力向上	スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに即して教育活動が展開されるよう、教育活動の取組状況の検証及び改善に向けた検討を行う。	4:十分な取組ができた 3:取組は概ねできた 2:取組が低調であった 1:全く取組めなかった	3	・生徒による授業評価、保護者対象の学校アンケートの結果等を踏まえ、授業改善の推進やグローバル教育に係る新規企画の検討を進めるなど、スクール・ミッションの実現に向けて組織的に検討を行った。	スクール・ミッションの実現に向けて組織的に検討が進められている。今後は、具体的な取組の展開を期待している。	B
	働き方改革の推進	業務内容の精選及び教員間の業務量の平準化を図るとともに、ICTを活用した業務の効率化及び教員業務支援員を活用した超過勤務の削減を図る。	時間外在校等時間が 4:月平均45時間以下 3:月平均50時間以下 2:月平均55時間以下 1:月平均55時間超	3	・欠席連絡のデジタル化等ICTを活用した業務の効率化に取り組むとともに、教員業務支援員の活用により教員の業務削減を図った。 ・時間外在校等時間は月平均47.9時間(令和6年12月末現在)であり、働き方改革の推進に向けて更なる努力が必要である。	ICTの活用により業務改善が進められている。人材育成の観点からも業務の平準化を意識的に進めていく必要がある。	B
学習指導	大学入試等に対応できる高度な思考力や判断力の育成	「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を推進し、思考力・判断力・表現力等の伸長を図る。	授業アンケートにおいて、「生徒が自ら考える時間や発表する活動が取り入れられている」の質問に対して、肯定的評価の割合が 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4	・授業アンケートにおける「生徒が自ら考える時間や発表する活動が取り入れられている」の質問に対して、肯定的評価の割合は91.6%であった。 ・新課程による授業も3年目になるが、授業改善はかなり行われてきている。	自ら考え表現する学習活動により成果が上がっている。活動内容や思考力等を評価基準に設定することも検討する必要がある。	A
	授業におけるICT活用の促進	個別最適な学びや協働的な学びの充実に向け、学習者用端末、教育ダッシュボード等のICT環境の積極的な活用を図る。	授業アンケートにおいて、「科目の特性に応じて、ICT環境が効果的に活用されている」の質問に対して、肯定的評価の割合が 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	・授業アンケートにおける「科目の特性に応じて、ICT環境が効果的に活用されている」の質問に対して、肯定的評価の割合は82.2%であった。 ・フルクラウド化になったメリットを活かし、個別最適な学びや協働的な学びの充実に向け、ICT活用をさらに促進することが必要である。	ICTの活用を更に推進するための方策を検討する必要がある。情報管理に留意いただきたい。	B
	図書館利用者の増加及び、探究活動の更なる充実に向けた図書館利活用の促進	「図書だより」「図書館通信」の定期的な発行及び、学期毎に行うビブリオ・バトルの充実により、図書館活動を活性化させる。また、探究活動、授業等における図書館利用時数の増加に努める。	図書館利用者数が 4:月200人以上 3:月100人以上 2:月50人以上 1:月50人未満	3	・生徒の発行する「図書だより」及び教員の発行する「図書館通信」を定期的に発行し、特に「図書だより」については、全て英語で作成したり、作者に関するより深い考察を掲載したりするなど、意欲的なものが多くみられた。 ・図書館利用者数は月平均196人で、探究科の授業や自習活動の場として定期的に利用する生徒が増加した。	図書だよりを英語で作成する取組はユニークで興味深い。蔵書の充実や電子書籍の導入についても検討していただきたい。	B
生徒指導・教育相談	基本的な生活習慣の育成と自己指導能力の伸長	ホームルームや集会行事などを通じて規則やマナーを遵守する意識の向上を図るとともに、ホームルーム活動や生徒会活動で生徒自身にルールなどを考えさせる場を設ける。	4:十分な取組ができた 3:取組は概ねできた 2:取組が低調であった 1:全く取組めなかった	3	・登校指導や通学路指導をほぼ計画どおり実施した。始業式・終業式・学年行事など多くの生徒が集まる際に、時間厳守や服装マナー等について呼びかけた。 ・校則の在り方を生徒自身に考えさせ、生徒による主体的な見直しを進め、自己指導能力の伸長を図った。生徒同士で考える時間を十分に与えるよう工夫する必要がある。	生徒による主体的な取組が進むことを期待している。遅刻数など数値で達成状況を検証してみてもどうか。	B
	多様性を認め合い、自他の生命を尊重する豊かな心の醸成	普段の学校生活の様子観察や定期的な意識調査を通して、生徒の実態把握に努め、生徒部・学年・スクールカウンセラー・PTAや外部機関も含めたあらゆる部署と情報を共有し連携して、不登校やいじめの未然防止・早期発見・早期解決に努める。	4:いじめを早期に発見し、早期に解消できた 3:いじめ事案が発生したが、解消できた 2:いじめ事案が発生し、解消に向けて対応中である 1:いじめ事案が発生し、解消に至らなかった	2	・学校生活アンケートや本人・保護者からの訴えで判明した事案については、すみやかにいじめ対策委員会を開催し、組織での解決に努めた。 ・依然として解消途上のいじめ事案があり、今後も継続して指導と支援をしていく必要がある。	早期発見・対応のシステムが機能している点は評価できる。関係機関と連携して適切に対応していただきたい。	C
進路指導	生徒一人ひとりの自己実現に向けた支援の充実	生徒一人ひとりが高い自己実現に向けた目標設定ができるよう、面談などの個別指導を充実させる。また、1年次から、進路だより等により、総合型選抜や学校推薦型選抜を含めた大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝える。	進路だよりの作成回数が 4:40回以上 3:30回以上 2:20回以上 1:20回未満	3	・進路指導部と各学年団が連携して、面談や個別指導の実施を推進したことにより、特に低年次の生徒との面談の回数が増え、生徒一人ひとりの自己実現に向けた、早期からの支援を充実させることができた。 ・「進路だより」を30回以上発行するとともに進路説明会等を開催して、大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝えるよう努めたが、保護者からは1年次から早期に進路情報の提供等を求める意見が寄せられた。	進路だよりの発行などきめ細かく対応されている。入学後の早期の意識づけや進路に関する情報提供が必要であると考えられる。今後は、附属中学校における進路指導との連携が大切になる。	B
	進学指導に係る指導体制の強化及び指導力の向上	教員の予備校や大学での研修への参加を促進するとともに、各学力層に応じた指導が行えるよう、模試分析や授業・課外授業等において各教科と連携を図る。	外部の研究会への参加者が 4:のべ40人以上 3:のべ30人以上 2:のべ20人以上 1:のべ20人未満	4	・コロナ禍で対面型の研修会への参加が難しい状況が続いたが、今年度は予備校主催の教科研究会等の外部の研究会への参加者が46人と増え、最新の傾向を踏まえた学習指導体制の充実を図ることができた。 ・先進校視察を複数回行い、教科指導や進路指導のスキルアップを図るとともに、模試分析や課外授業等も教科会と連携しながら推進した。	指導力向上に向け、積極的に取り組まれている。研修の成果が授業において生かされることを期待している。	A

健康・安全	安全衛生管理体制の確立	感染症に関する衛生管理体制を教職員全体で共有し、さらに生徒の保健整備委員との連携を図り、校内での感染症拡大を最小限にとどめる。	4:校内での感染症の広がりがなかった 3:校内での感染症の広がりを最小限にとどめた 2:校内で感染症の集団発生が発生した 1:校内で感染症の集団発生が発生し、学校閉鎖になった	3	・2学期の終わりにインフルエンザによる学級閉鎖を実施したが、平素からの感染状況の把握と早期対応を講ずることで、学校全体への拡大を防ぐことができた。 ・新型コロナウイルス感染症の発生件数は少なくなったが、インフルエンザはここ2～3年の間集団発生がなかった分、クラスでの広がりが早かった印象である。	感染拡大を防いだことは組織的な取組の成果である。生徒一人ひとりの意識高揚を図ることも必要である。引き続き、保健衛生に取り組んでいただきたい。	B
	健康管理体制の確立	生徒・教職員が健康診断の結果を把握し、病院等に通院し健康の保持増進に努める。	病院受診をし治療した者が 4:80%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満	3	・きめ細かく受診勧奨を行い、心電図や尿検査による病院受診はほぼ100%を達成したが、齲歯による歯科受診が50%を切るなどして、全体としては病院受診率が下がっている。今以上に歯の大切さを理解させ、歯科受診率の向上を目指していきたい。 ・教職員に関しては受診率はおおむね良好であった。	受診率を高めるためには、生徒だけでなく、保護者の理解を得ることも必要であると考えられる。学校医との連携等により、更なる啓発をお願いしたい。	B
	体育的行事の安全運営の確立	新体力テスト、クラスマッチ、体育大会等の体育的行事を生徒のニーズに答えながら、事故なく運営する。	4:全ての体育的行事を事故・怪我等なく行えた 3:体育的行事で軽い怪我等が発生した 2:体育的行事で事故や怪我等が多く発生した 1:体育的行事で事故や怪我等が多く発生し行事を中止した	3	・体育的行事に関しては、軽いけが等は発生したもの、安全指導や熱中症対策に努めたことで、年間を通して大きな怪我につながるような事案の発生はなかった。	暑さ指数計やミスト噴霧器の設置等、安全対策に尽力されている。クラスマッチ等の体育的行事の日程確保も検討していただきたい。	B
教育企画	教科横断・文理融合的な学習活動の科目化に向けたノウハウの蓄積及び教員の意識醸成	教科横断・文理融合的な学習に係る授業実践の回数を増やすことにより、指導のノウハウの蓄積を図るとともに、将来の科目化に向けた、教員の意識の醸成を図る。	4:授業実践を40回以上行い、ノウハウを体系化した。 3:授業実践を35回以上行った。 2:授業実践を30回以上行った。 1:授業実践が30回未満であった。	2	・デュアルクロスカリキュラムを1年次は15回、2年次は11回、3年次は5回実施することができた。昨年度の実践回数をもとに評価基準を設定した上で、各教科の教員に積極的に実施するよう促したが、昨年度の実践回数が多かったこともあり、目標を十分に達成することができなかった。 ・デュアルクロスカリキュラムの実践を促進する観点から校内研修を実施し、ノウハウの共有を図った。	ノウハウの蓄積を評価するための基準として、実践回数ではなく、指導内容の質を評価する指標を検討していただきたい。	C
	探究学習の一層の充実	課題解決力や表現力の向上に加え、コンテスト等への出品を目標の一つとし、普通科や探究科の生徒が意欲をもって探究活動に取り組むことができるよう工夫する。	コンテスト等への出品数が 4:74本以上 3:62本以上74本未満 2:46本以上62本未満 1:46本未満	4	・探究科の生徒に加え、普通科の生徒も31本の研究成果を出品し、科学部等を含めると延べ145本の出品があり、生徒が意欲をもって探究活動に取り組むことができたと思われる。 ・筑波大学主催の「科学の芽賞」等において学校奨励賞をいただくなど、学校全体で探究活動を推進してきた成果が表れた。	探究学習は生徒の学習意欲の向上につながると思う。今後は、探究学習が大学での学修や職業人生につながるよう工夫していただきたい。	A
	国際交流活動の充実	探究科の国際交流活動を工夫するとともに、普通科の生徒の国際交流活動への参加促進を図る。	4:国際交流活動を新規に企画し、継続的に実施した。 3:国際交流活動を新規に企画し、実施した。 2:国際交流活動を新規に立案したが、年度内に実施に至らなかった。 1:国際交流活動を立案できなかった。	3	・下関市国際課等と連携し、中国や韓国の大学生や高校生と交流する機会をつくることができた。 ・探究科のみの企画としては、立命館アジア太平洋大学訪問やシンガポール・マレーシア海外研修を実施することができた。	国際交流活動は生徒にとって貴重な学習の機会である。今後は普通科も含め、継続的な活動を展開し、国際人の育成が図られるよう期待している。	B

## 6 学校評価総括(取組の成果と課題)と次年度への改善策

<p><b>【学校運営】</b> ○アンケート結果や学習データ等に基づいて取組状況を評価し、改善の手立てを検討する体制が整ってきている。各分掌では、授業改善の推進やグローバル教育に係る新規企画の検討、進路指導体制の充実・改善が進められており、PDCAサイクルに基づく教育活動の充実・改善を組織的に図る体制が整ってきている。今後は、授業改善等に関する他校の先進事例を参考にして教育活動の更なる充実・改善を図るとともに、若手・中堅教員の学校運営への参画を促し、組織力の更なる向上を図る必要がある。</p> <p>○欠席連絡のデジタル化等ICTを活用した業務の効率化、教員業務支援員の活用による教員の業務削減など、働き方改革を推進し、昨年度に比べ、時間外在校等時間が減少した。今後は、教員業務支援員を更に積極的に活用するとともに、校務のデジタル化や業務の精選を一層推進する。</p> <p><b>【学習指導】</b> ○全ての生徒が新教育課程に移行しており、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業が定着してきている。特に、大学入試の新たな傾向にも対応できるよう、思考力・判断力・表現力等の育成に向け、生徒が自ら考える時間や発表する活動の充実が進んでいる。</p> <p>○「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」に向けたICTの活用についても、概ね取組の成果が上がっているようである。教育ダッシュボードについては、環境の整備が進んできており、次年度ではさらに積極的な活用ができるよう、研修や情報提供などを行ってきたい。</p> <p>○「図書館だより」等の発行により図書館の利用促進を図ってきた。保護者対象のアンケートでは図書館利用が進んでいないと評価されており、今後は、探究活動における利活用を進めるなど、更なる利用促進を図る。</p> <p><b>【生徒指導・教育相談】</b> ○ホームルームや登校指導、集会行事等を通してルールやマナーについての指導を行い、基本的な生活習慣の育成を図った。また、生徒に主体的に校則の見直しに取り組ませ、自己指導能力の育成につなげることができた。今後も引き続き、主体性の育成という考え方や指導方法の共有・共通理解を図るとともに、生徒・生徒会がより主体的に自分たちの学校生活について考えられる場を設けるように仕向けていきたい。</p> <p>○学校生活アンケートや教員間の情報交換等を通していじめが疑われる事案を発見した場合は、速やかにいじめ対策委員会を開催し早期に対応を協議した。残念ながら、すべての事案の解決には至らなかったが、今後も引き続き、教育相談・スクールカウンセラーとの連携を進め、いじめの早期発見・早期対応を心がけ、安心安全な学校づくりに努めたい。</p> <p><b>【進路指導】</b> ○生徒一人ひとりに対するきめ細かな指導・支援については、学年ごとの進路検討会や、それを受けての生徒との個別面談、保護者を交えた三者面談等を通して、十分実施することができた。引き続き、進路だより等を通して、生徒の進路意識の更なる高揚を図りたい。次年度は、個別面談や進路だよりの回数・内容の更なる充実を図ることで多面的な進路指導の充実を努めていく。</p> <p>○年2回以上の進路検討会を実施することで、適切な文理選択、履修選択、志望校検討等各年次の課題について、進路指導部と各年次の連携を図ることができた。進路検討会の回数は十分であるが、今後は、教員の資質向上に向け、進路検討会に年次を超えて多くの教員が参加できるようにして、生徒の進路について情報を共有できる体制を構築していく。</p> <p>○予備校等が主催する学習指導に関する教員対象の研究会への参加人数は順調に増加した。今後は、更に、進路指導関係の業務の精選と重点化を進め、教員が指導力向上のために研究会や大学訪問に参加しやすい環境整備に努める。</p> <p><b>【健康・安全】</b> ○健康指導や安全教育、安全管理を適切に行うことができた。引き続き、年間を通じて基本的な感染症対策を徹底するとともに、健康診断の結果を提示し、なぜ治療が必要かを生徒に理解させ、自ら進んで病院受診するよう意識付けを図ってきたい。</p> <p>○来年度以降、附属中学校の校舎建設に伴いグラウンドの使用ができなため、体育的行事に関してはかなりの制限がある。現在、熱中症対策のためにも、体育大会やクラスマッチに関してJ:COMアリーナ下関での開催を検討しているところである。来年度以降も安全に配慮した体育的行事を計画していきたい。</p> <p><b>【教育企画】</b> ○生徒に課題解決力を身に付けさせるため、様々な活動に取り組むことができた。学校外での発表会でしっかり発表できるように、引き続き指導していきたい。</p> <p>○立命館アジア太平洋大学や下関市等と連携し、外国人と交流する機会の充実を図ることができた。保護者対象の学校アンケートの結果から、グローバル教育の充実を求める意見が多く寄せられており、今後は、包括連携協定を結んでいる下関市立大学の留学生との交流や、姉妹校提携を結んでいる慶南科学高校等との交流を企画していきたい。</p>
---